

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団

団体情報

代表者 （理事長） 山田 良司

住 所 〒305-0047 茨城県つくば市千現 2-1-6 つくば研究支援センターA-24

WEB サイト URL <https://www.miraizaidan.or.jp/>

“すべての人に食べる喜びを！”

『食物アレルギー分野の研究促進と啓発活動で社会を支援する』

当

財団は、2015 年 1 月、日本ハム（株）により設立されました。設立から今日までの約 5 年間、今や食生活に於ける喫緊の課題ともいえる「食物アレルギー」に焦点を絞り、社会が抱える課題や環境の改善に繋げるための様々な活動を行ってきました。この場を借りて、設立の経緯や当財団の活動内容をお伝えします。

当財団の設立者である日本ハム（株）の食物アレルギーへの取り組み開始は約 23 年前（1996 年）

に遡ります。当時は「食物アレルギー」が今ほど社会に認知されていなかった時代です。

お客様から「食物アレルギーを持っても美味しく食べられるソーセージ

・ミートボール等を開発して欲しい」という声が届いても、「市場性が薄く採算は取れない」という理由から事業化に躊躇する状況でした。ところが、「食べられなくて困っている人がいるなら、やってみなさい。」という当時の社長で創業者の大社義規氏（故人）の一言で、研究開発が本格的



に進むことになりました。同社は企業理念として「食べる喜び」を基本のテーマとして掲げているのですが、それを体現した経営判断だったと思います。研究開発が進み、専用工場で生産される食物アレルギー対応食品「みんなの食卓シリーズ」として事業化されて今日に至っています。また、同社が開発した食品中のアレルゲンの量を測る「検査キット」はアレルゲン表示制度を陰で支えています。

同社が食物アレルギーへの取り組みを始めてから約 20 年経ってもなお、疾患を持つ方及びサポートする方の QOL

（Quality of Life）改善は未だ進んでいるとは言えない状況がありました。患者数は増え続けています。同社はこれに危機感を感じ、当財団が設立されることになりました。同社には企業理念を基にした“世界で一番の「食べる喜び」をお届けする会社になる”という目標があるのですが、その実現のためには「食物アレルギー問題に今まで以上に積極的に介入する、つまり企業活動とは別に社会支援を行う必要がある。」と判断したのです。これまでの経験により、本領域の問題は複雑に絡み合っているので解決には一企

業では難しく、国内外の有志と協働しやすい仕組みを作るために、『公益財団法人』を選択しました。当財団は設立者の意を受けて、「すべての人に食べる喜びと感動を提供する」ことを究極の理想に掲げ、「食物アレルギー」に特化し、

「食物アレルギーと向き合う人々」に「食べる喜び」を提供するための活動を行なっております。

次に、当財団の活動内容と反響についてご紹介します。事業活動としては大きく以下の3つの事業を行なっています。

1. 公募型研究助成事業

対象領域を「食物アレルギー」に特化しているのが最大の特徴で、根本的な治療法や予防法が確立されていない現状を打開することを目指しています。助成区分は「医学と食分野の融合型研究の促進」を狙いとする共同研究と「若手研究者の支援」を狙いとする個人研究の二区を設けています。2016～

19年度の助成総額は2億4,613万円、助成課題総数は87件です。アレルギーを欠損させた小麦の育種など、出口が見えてきた研究成果も出始めています。2016年度の助成事業から口頭成果報告会も開催しています。日頃接点を持ちづらい「医」と「食」の研究者が一堂に会する場の創出により、異分野研究者の問題意識のすり合わせはもとより、新たな共同研究のマッチングに繋がっています。

2. 食物アレルギーの方のQOL向上を目指す啓発活動

(1) 食物アレルギー対応食 料理コンテスト

家庭で生まれた対応料理の伝承、アレルギーに対する教育機会の創出を狙いとし、食物アレルギーに配慮したアイデア料理を表彰しています。設立時より毎年実施しており、本年度で第5回目（現在選考中）です。過去4回で平均



平成30年度研究助成事業_成果報告会_個人研究発表者の皆様



第4回食物アレルギー対応食_料理コンテスト表彰式

791 件/回の応募があり、各回 20 作品を表彰しています。美味しさはもとより、想いのこもった作品が揃っています。表彰式は、創作エピソードも披露され感動が溢れます。



第 4 回食物アレルギー対応食料理コンテスト_一般の部_最優秀賞_
みんな大好き 色いろたい焼き

受賞作品はレシピ集と料理動画にまとめ、当財団の Web サイト上で無償公開している他、厚生労働省が立ち上げたポータルサイト内

<https://allergyportal.jp/bookend/public/>
でも紹介されています。



(2) 主催セミナー

料理動画トップ画面_作品名_みんな大好き 色いろたい焼き

栄養士等を対象に年間 5 回、地方を重点的に実施しています。過去 4 年間で聴講者は約 3,000 名を超えました。この 10 数年の間に、治療・栄養指導等の考え方に大きな変化があったため、最新情報を盛り込んだ専門家の講演は強いインパクトを与えています。

3. その他の事業

(1) 子供向け啓発書籍の制作

小学生に食物アレルギーの正しい知識を持ってもらうことを目的に、7 名の専門家の監修を得て、学習漫画を制作。2016 年 4 月に全国の小学校（約 22,300 校）及び公立図書館（約 3,200 館）へ寄贈しました。2019 年 3 月には厚生労働省の協力を得て、全国のアレルギー疾患担当部局に合計で 10,000 部を寄贈しました。母子等への教育を目的に管下の保健センターに配布してもらう構想です。

(2) 団体活動支援助成

市民団体等が行う教育目的の活動や啓発物作成等に対して助成する事業を行っています。3 年間で 20 件、総額約 1,000 万円の活動に助成しています。直近の助成先としては、医療スタッフが管理することによって安全性を高めた「アレルギー対応子ども食堂」や海外渡航者用の「食物アレルギーの英語表現集」等があります。

これらの活動を5年間の中で軌道に載せることができたのは、日本ハム（株）が約20年に渡って培った本領域の経営資源や経験が大きな推進力となったことは間違いありません。しかし、活動を始めてから次々に直面するニーズに対応する新たな挑戦を後押しくださっているのは、当財団活動に協力、参画いただいている国内外の有識者、行政関係者、市民団体等の皆様の見識と情熱によるものと実感する毎日です。ここに改めてすべての協力者に感謝の意を表します。そして、一企業を飛び出し独立した公益法人として活動を行う当財団は、次の5年はギアを上げ、食物アレルギーを専門とするサイエンスをベースとした活動を担う国内では特徴的な財団として、「食物アレルギー」によって困っている人が居ない社会の到来を目指して活動して参ります。

以上

執筆 専務理事 沖浦 智紀

（プロフィール）

2000年東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程を修了、同年、日本ハム株式会社に入社、中央研究所にて技術開発や研究企画を担当。

2015年、同社が一般財団法人ニッポンハム食の未来財団を設立した際、同法人に出向し、専務理事として法人立ち上げに従事。以降、「食物アレルギー」対策に特化した活動を行っている。本人の原動力は「食べられない悲しみをなくしたい」という想い。科学研究の加速と正しい情報を届けるために奮闘中。



Facebook : <https://www.facebook.com/miraizaidan>

Twitter : <https://twitter.com/syokunomirai>

